

令和5年度 第2回浦安市郷土博物館協議会議事録

1 開催日時 令和6年3月26日(火) 13時～14時30分

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

3 出席者

(委員) 明保治男委員長、舘里枝副委員長、大村洋子委員、鈴木孝一委員、前田智幸委員、吉野忍委員、男全寛子委員

(事務局) 教育長、生涯学習部長、生涯学習部次長、郷土博物館長、郷土博物館職員4名

(傍聴人) 7名

4 議 事

1. 開会

(1) 委員長あいさつ

(2) 教育長あいさつ

2. 議事

報告事項(1)令和5年度 郷土博物館事業報告

(2)令和5年度企画展 「浦安の風景画展～むかし・いま～」

開催案内

協議事項(1)令和6年度 郷土博物館事業計画(案)

その他

5 会議経過

会議に先立ち、委員長、教育長がそれぞれあいさつを行った。

議 事 報告事項

(1) 令和5年度 郷土博物館事業報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) ジュニア学芸員の活躍の場が広がっているのは喜ばしいが、まちの歴史を知ってもらうためにも、町の歴史のあるところを案内するなど、博物館内という狭い場所だけではなく、もう少し広げた先の展望を考えてほしい。

(事務局) 先日、市内の文化財や史跡を回るイベントを行った。これまでは、市内の文化財や史跡だけを紹介することが多かったが、浦安のボランティアガイドである「ぶらり浦安ガイド」にご協力いただき、途中で浦安の銘産品を買うなど、観光的な内容を増やした形で実施した。今回は浦安駅から博物館までのコースだったが、今回は、当代島の方も回りながら、市民の方にまちの魅力や歴史に触れてもらえるよう考えていきたい。

- (委員) 以前から申し上げていることではあるが、開館当初からのもやいの会会員が高齢化し、漁師町の意外な歴史を知る人たちが少なくなっている。中高生が対象となる「もやいの会ジュニア」の育成は嬉しく思うが、50代～70代くらいの、漁師の子供世代、もやいの会を引き継ぐ世代の掘り起こしと一緒に考えたいと思っている。ジュニア学芸員の活躍は素晴らしいが、現在のボランティアの下の世代が厚くなると嬉しいと思っている。
- また、博物館協議会とは別に浦安市文化財審議会があるが、協議会でも文化財関連の報告があるとよい。審議会でも現在どのようなことを話し合っているのか、文化財の整備計画なども知りたい。
- (事務局) 開館当時からボランティアは、高齢化が進み、減少してきている。展示リニューアルの過程で、第1期の埋立地ができた頃に浦安へ引っ越してきた方、年齢で言うと大体6、70代の方に、当時の写真をご寄贈いただいたり、お話を伺うことができている。昨年7月に開催したリニューアル記念シンポジウムの際にも、そういった層の方に多くご来場いただいた。今後は、漁師町時代の最後の世代の方はもちろん、埋立直後に浦安に来た方や、浦安市の元職員から聞き取りを行ったり、ボランティアとしてご協力いただきたいと考えている。
- 文化財の状況に関しては、次回会議以降は資料を用意する。現状の報告として、文化財住宅は、年度ごとに文化財建築の専門業者に相談しながら修繕を行っている。また、建築の専門家である、文化財審議委員で千葉大学准教授の顥原澄子先生にご協力をいただいて、建築の専門的な部分や活用についても色々お話を伺っており、4月には、千葉大学の学生による旧大塚家住宅の実測を予定している。その他にも、新たな文化財の指定や史跡表示板の設置について、文化財審議会から意見をいただきながら検討しているので、協議会でも共有していく。
- (委員) 「ふるさと浦安作品展」で、今年から博物館活用推進委員会の教員も審査に参加することになった。児童生徒は昔の浦安をあまり知らない子が多いが、作品展に応募することによって、昔の浦安について調べて、こんな浦安があったんだ、と知ったという意見が多く出てきた。とても意味があることだと改めて感じたので、ぜひこの作品展は継続して欲しい。
- (事務局) 活用推進委員も審査に加わり、浦安に馴染みのない教員も、委員としてメンバーに入ることによって、改めて浦安の素晴らしさを知って、児童生徒と一緒に勉強できたという意見や、次年度の作品作りのアドバイスがしやすくなったという意見を多くいただいた。各学校に1名委員がいるため、どのような切り口で取り組み、成果をまとめていけば賞に選ばれるかということ、児童生徒に伝えられるというメリットもあったと聞いている。
- (委員) 小学校の郷土史の勉強は大体4年生くらいなので終わってしまうが、もっとやるべきだと思う。小学校高学年、あるいは中学生に浦安のことを知ってもらうために、何か案はあるか。
- (事務局) 中学校の活用は博学連携事業の中でも大きなテーマとなっている。5年度は、浦安中学校のPTAで、浦安魚市場のドキュメンタリー映画を切り口に、浦安魚市場に勤務されていた方々をお招きして、市場の歴史をお話いただいたということを知っている。次年度以降、中学校と連携しながら郷土学習のバリエーションを増やしていき、教育課程の中でできること、教育課程外でできることを精査しながら取り組み、情報を発信していきたい。

(2) 令和5年度企画展 「浦安の風景画展～むかし・いま～」開催案内

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり

- (委員) 展示作品の作者である金子権蔵について、詳細を知りたい。
(事務局) 1907年に猫実生まれ、東京中央電話局で勤めた後、浦安の公民館長、社会教育委員、教育長などを歴任した。その一方で、学生時代から絵の勉強をされ、様々な作品を残している。生前、浦安を描いた絵を市にご寄贈いただき、今回展示をしている银杏の絵は、市役所の旧庁舎に飾られていた。展示室でプロフィールも紹介しているので、後ほどご覧いただきたい。

協議事項 (1) 令和6年度 郷土博物館事業計画 (案)

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり

- (委員) 季節の行事について、獅子舞や豆まきについても資料に追加してほしい。
(事務局) 追加する。
(委員) 中学2年生で職業体験があるが、博物館で受け入れは行っているのか。
(事務局) 5年度は、日の出中学校2年生と東海大付属浦安中学校の1年生と3年生、計3校の受け入れを実施した。随時受付しているので、引き続き中学校に周知し、受け入れを行う。
(委員) 博物館では、過去のことをきちんと伝えることが大事だが、未来をどう思考するかということも同じように大事である。これからのまちづくりをいかに進めているかということについて、何らかのヒントのようなものが必要だと思う。今の展示は埋立のところで終わっているが、中町・新町の人にもっと興味を持ってもらうためにどうすればいいかぜひ考えてほしい。
(事務局) 5年度は、「ふるさと作品展」の前に、リニューアルした展示室を活用し、埋立後の浦安の発展や、鐵鋼団地について解説し、埋め立てた場所にも歴史が連なっていることを紹介した。作品展に出品される作品のテーマでは、開館当時は文化財や漁業について調べたレポートなどが主だったが、近年は、例えば公園の遊具を調べたうえで、もっと安全な遊具が必要だという提案や、市川の下水処理場に見学に行って、自分たちの使った水がどう処理されているか、将来的にどうするべきか、という意見など、「町をこうしたい」という提案型の作品が増えてきている。児童生徒の考えが未来志向に変わってきているということを感じている。
(委員) 高洲海浜公園のところに、ぜひ昔のボンギ(漁場の位置や境界を示す目印として海に立てられた木の棒)を立ててほしい。海に祈るといふ行事がそこにあり、海と浦安が近かった証である。
(事務局) 入船地区に、「待ち合わせのボンギ」という史跡表示板があり、これは漁師が潮待ちをする目印のボンギが立っていたところである。また、高洲北小の傍に漁業記念公園があり、リュウグウボンギ(現在の高洲地区に立てられていたボンギ。かつてこの付近で水神祭が行われていた)を模したモニュメントがある。浦安はかつて漁師町で、今も海とともにあるというこ

とを示すため、また高洲は市内で唯一昔の漁場がそのまま字になった場所なので、記念公園として残している。

- (委員) 浦安遊漁船組合に協力してもらって、水神祭を復活させ、それを映像に残すと、ボンギの意味がより伝わると思うので、そういうイベントを企画したらいかがか。海だと難しいこともあると思うので、高洲の漁業記念公園の、ボンギのモニュメントのところでも良いと思う。

その他（１）全国博物館大会について

事務局より、令和５年11月に開催された全国博物館大会における、展示リニューアルに関する発表について報告した。意見等は特になし。

その他（２）委員からの意見等

- (委員) 三番瀬環境観察会について、付近を散歩している方も多く、ロケーションが好きな方も多いと思うので、博物館と連携して活性化できたらいい。
- (委員) 古文書を解読するサークルや、漁具や漁法を研究するサークルなど、学芸員の得意分野を中心に、市民と調査研究するような事業があるとよい。
- (委員) 今年は三社祭を楽しみにしているが、８年間の空白があり、当日かつぐ人はいても、準備から片付けといった、一連の祭りを担う人が少なくなっているということをあちこちで聞いている。博物館の中で、実際に動いている人と触れ合える「もやいの会」のことがすごく素敵だと開館当時から思っているが、「もやいの会」も人数が減り、祭りの担い手も少なくなっている。同じ問題だと思うので、ここで自分たちに何ができるかと考えている。ただ楽しむだけではなく、大人が一生懸命準備し、楽しみ、力を合わせて片付けたりする姿を子供たちに見せるというのは、何よりもポイントだと思っている。
- (委員) 浦安は新しい町だが、様々な木がある。弁天にある鐵鋼通り側の防音林には80種類ぐらいの木があり、子供達の自然学習の場に使えると良い。また、放課後の児童育成クラブで、浦安の歴史について、勉強という形ではなく、おばあちゃんが子供たちに語る語り部のような形で伝えられたら良い。
- (委員) 博物館で実施する神酒所巡りイベントは8年ぶりということで、懐かしさを感じている。楽しみにしている。
- (委員) 「ふるさと浦安作品展」では、家族と一緒に作品を作ることが認められているというのが特徴であり強みであると思う。浦安の場合は外から引っ越して来ている方が多いので、家族で取り組むことで、ふるさと浦安について知っていく良い機会だと思っている。浦安には、日本で暮らしている外国の方も多いが、出品作品の中には少なく感じている。一人で考えて何か作品を作っていくのは難しいかもしれないが、外国から来られた保護者の方も一緒に考えて作品制作に取り組めば、浦安のことをもっと知ることができるし、帰国後も、浦安のことを思い出して話していただけるかもしれない。外国人の家庭向けに、何かアプローチができればよいと思う。

以上をもって、令和５年度第２回浦安市郷土博物館協議会は閉会した。閉会后、企画展の視察を行った。